

友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。 箴言 17章 17節

-----

すでに読まれた方もいらっしゃるかもしれませんが、先日朝日新聞のコラムに「子だくさん 周囲を頼る力」という記事がありました。エルサレムに住む記者が書かれたものでした。「イスラエルの出生率は2.90で先進38か国の中でぶっちぎり、次はメキシコ2.08, フランス1.79と続く」でした。日本では昨年の出生率は1.26で出生数は過去最少だったそうです。記者はなぜこんなにイスラエルが多いのか? 「背景に子は神の恵みとするユダヤ教の教えと、ホロコーストの影響」。しかし、他にないかと取材したところ「周りが手を貸してくれるから大丈夫」という答えを何度も聞いたそうです。

私も思い出しました。米国にいたころ、テレビで6人か7人だったかを出産された方のニュースが流れていて、各地から寄せられた山のようなプレゼント、紙おむつやら、洋服やら、おもちゃやら、それはそれは皆から祝福され喜びに溢れていました。お母さんは寝る時間もなくさぞや大変だろうと思っていましたら、その方は教会の姉妹たちが交代で毎日来てくれるから大丈夫と。それを聞いて私の心もぱあっと明るくなりました。愛のわざが自然体でなされていて素敵だなあと思いました。

日本では今、急速に子育てのためのいろいろな策が考えられています。この記事を読んで、すぐ手を貸してあげられる周りの力があつたらどんなに平和な子育てができるだろうかと強く思いました。子育てに限らず、いろいろな場面で「what would Jesus do?」イエス様はこのような時どうなさいますか? と問いながら、主の望まれる行いへ常に導かれますようにと祈ります。

伝道師：川島正子